

VOL.12

2025.10.15発行

ハンダタイムズ

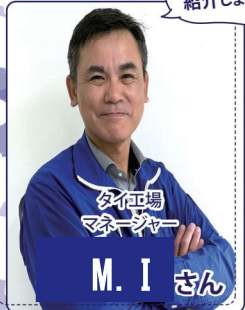
気になる あの工場に潜入!

Vol. 4

お客様がアポイントなしで訪れても、「綺麗ですね」と感心されるといふタイ工場。仕入れ先の見直しによる確かなコスト削減や、全員で取り組む改善活動の真髄に迫ります!

徹底された5Sはハンダ随一 全員で改革に挑むタイ工場編

私が
紹介します!



工場の主な役割

白物家電のゴム部品で暮らしを支える海外拠点

私たちのタイ工場では、炊飯器のふたの裏についているパッキンや、エアコンの内部部品といった白物家電のゴム部品を製造しています。暮らしに密接に関わっていますが、普段はなかなか目に触れない部分を支える仕事です。従業員は私以外、全員がタイ人の118名。立ち上げメンバーも含め、勤続30年のベテラン社員も在籍しています。

工場全体の雰囲気

01 厳しさと温かさの両立 役職を超えた交流も

仕事中は私語を慎み、皆が緊張感を持って業務に集中しています。タイ特有の厳しい上下関係はあるものの、休憩時間になると役職にかかわらず、皆でわいわいと話に花を咲かせます。ときには、従業員から管理職へプレゼントが渡されることも。全体にアットホームな雰囲気、オンとオフの切り替えがうまい印象です。

02 勤勉で、筋の通った仕事ぶり

従業員は皆、仕事に対して非常に勤勉です。決められたことを決められた通りに実行する姿勢が徹底されており、その達成率は限りなく100%に近いと思います。一人ひとりが筋の通った仕事に徹する。これは私が好きだなと感じる、工場の魅力の1つです。



タイ工場の強み

現場で営業ができる環境

吉岡社長が長年提唱している、「現場でできる営業活動」が達成できている工場だと自負しています。いつ、どのお客様がアポイントなしで来られても、「綺麗ですね」と満足していただけるほど、5Sが徹底されていることが私たちの強みです。



タイ工場オリジナルの取り組み

01 全員参加の内部改革によるコスト削減

利益を増やすため、2年前から材料の価格低減に取り組んでいます。管理職全員が人脉を活かして韓国や台湾メーカーを開拓し、お客様や堺工場のお力も借りながら材料変更を進めてきました。

改善事例

ある部品では、材料メーカー様にご協力をいただきつつ、大幅なコストダウンを実現。対象材料費を削減することに成功しました。

02 理論に基づいた在庫管理と5S活動

感覚に頼るのではなく、理論から算出した在庫を持つことで無駄をなくす取り組みも2年前から進めています。また、5Sはハンダの中でもナンバーワンだという自負があります。毎日の清掃はもちろん、年2回、大型連休前に大掃除も実施。表示による管理も徹底し、常に整理整頓された状態を保っています。



今後の目標

成長を力に、利益を皆に

まずは売り上げを

増加し、ハンダが目指す利益率を達成し続けることが目標です。今後も内部改革を続け、生まれた利益で社員の給料を1パーツでも上げられればと考えています。また、暑い国ならではの環境改善も進めます。皆さんの足腰の負担を減らすため、長年使ってきた和式トイレの洋式化も実施予定です。

私が ハシダ技研工業を選んだ理由

失敗を恐れて挑戦をためらっていませんか？ハシダ技研には、意欲ある人の「やってみよう」を全力で受け止める備の深さがあります。未経験で入社し、大きな失敗を経験したS.Yさん。しかし会社はS.Yさんを見捨てず、ひたむきな努力を正当に評価し、リーダーへと抜擢しました。この逆転劇こそ、挑戦する人を応援する会社の姿勢そのもの。あなたの「伸びしろ」に投資する環境がここにあります。

東大阪工場
S.Yさん

Profile
金属の熱処理を行う会社で検査員として勤務した後、ハシダ技研工業へ。現在は東大阪工場でチームリーダーを務める。



POINT 面接での言い間違い。その温かな対応が入社の決め手に

前職は長時間労働だったため、当時3歳の子どもの時間を少なく、元々興味があった溶接職への転職を考えていました。そのころ、当社の「未経験者可」という求人情報を見つけ、**福利厚生が手厚く、土台のしっかりした会社**だと感じ、他社は受けずに応募。面接では緊張のあまりブレーキプレスを「ベンチプレス」と言い間違えましたが、**面接官の対応に温かみを感じました**。「落ちた」と覚悟していただけに、合格の電話には家族とガッツポーズをしました。

入社後の実感

01 より良いものを作ることへの意識の高さ
東大阪工場は、まさに「職人が集う工場」という印象でした。自分の手で作らなければ何も生まれない、時間との戦い。皆がプライドを持って、より良いものを作ろうという意識の高さに驚きました。

02 失敗を乗り越え掴んだ信頼と、リーダーとしてのやりがい
入社1年目に社用車で全損事故を起こし「もう先はない」と落ち込みましたが、ひたむきに頑張りが続きました。会社は私を見てくれて、少しずつ信頼を取り戻し、仕事を任せられるように。未経験で大きな失敗をしても、やる気があれば役職を与えてくれる会社の「器の大きさ」には驚きました。このチャンスに応えたい気持ちがある、今のやりがいです。リーダーとなってからは「人を育てること」に注力しています。「人を育てて技を売る」という言葉通り、仲間を育てることが会社の未来の力になります。大変ですが、仕事は面白いと思えるのは幸せなことです。

成長を後押しする環境

学び続ける文化。「ハシダ塾」が個人の成長を加速させる

大人になると専門分野の勉強以外で学ぶ機会は少なくなりますが、「ハシダ塾」では物事の見方や経営について深く学びます。毎週のレポートなどを通じて勉強の習慣が身につく。社員全体のレベルが底上げ。もちろん、塾で教わることを全て一度に吸収できるわけではありません。吸収しきれなかった部分こそが今後の自分の課題となり、それをどう自分のものにしていくかで、成長に差が生まれるのだと思います。

未来の仲間へのメッセージ

11歳の息子も憧れる会社。家庭での会話が伝える会社の魅力

家で会社のことを話すと、それを聞いた11歳の息子が「大人になったらハシダ技研に入る」と言ってくれます。息子の目にも魅力的に映っていると思うと、良い会社だと実感する日々です。未来の仲間にも、ここで自分を磨き、会社をさらに良くしていったほしいと願います。

成長の原動力

失敗から学ぶ

忘れられない大失敗

一度だけ破ってしまった自分との約束

本社工場での修業時代、上司の助言で「毎日、仕事後に練習する」と決めました。しかし一度だけ、花火大会を理由に休んでしまったのです。翌日、上司から「雨が降っても槍が降っても、自分で決めたことならやり続けろ」と厳しく叱責され、その言葉がやり抜く覚悟と継続の大切さを教えてくれました。

岐阜工場
N.Nさん

忘れられない大失敗

一度だけ破ってしまった自分との約束

本社工場での修業時代、上司の助言で「毎日、仕事後に練習する」と決めました。しかし一度だけ、花火大会を理由に休んでしまったのです。翌日、上司から「雨が降っても槍が降っても、自分で決めたことならやり続けろ」と厳しく叱責され、その言葉がやり抜く覚悟と継続の大切さを教えてくれました。

誰にでも訪れる仕事での失敗。しかし、本当に大切なのはそこから何を学び、どう乗り越えるかです。2人の社員の経験から、失敗をバネにする力のヒントを見つけましょう。

失敗からの学びと、乗り越えた方法

仲間の支えが乗り越える力に

もし上司の厳しい言葉がなければ、楽な道を選んでいたらかもしれません。働く上で原動力となったのが、「技術を早く身につけたい」「上司を喜ばせたい」という気持ちと、仲間たちの支えです。当初は全く通らなかったレントゲン検査が5台中3台は合格するように、練習の成果を実感できました。

若手社員へのメッセージ

「自分との約束を守る」のは簡単ではありません。成長を感じられず辛いときもありますが、続けられれば必ず道は開けます。大事なのは完璧さより「やめないこと」。焦らず、諦めず、共に成長していきましょう。10年前の自分に伝えたいのは、「もっと苦しみ、悩め。でも大丈夫だ」という言葉です。

忘れられない大失敗

慣れから生じたタスク管理の甘さ

2018年頃、試験装置の製作を担当しました。納期にはまだ半月ほど余裕があったため、上司に図面を渡されたときも「大丈夫です」と安易に答えてしまいました。入社15年目で慣れもあり、「いつもの作業」と軽く考えていたのです。しかし組み立てを始めると、設計上の問題が次々と発覚。お客様に納期を延長していただいた上で、数人が泊まりがけで作業する事態となり、お客様からもクレームをいただくことになりました。

尼崎工場
Y.Kさん

忘れられない大失敗

慣れから生じたタスク管理の甘さ

2018年頃、試験装置の製作を担当しました。納期にはまだ半月ほど余裕があったため、上司に図面を渡されたときも「大丈夫です」と安易に答えてしまいました。入社15年目で慣れもあり、「いつもの作業」と軽く考えていたのです。しかし組み立てを始めると、設計上の問題が次々と発覚。お客様に納期を延長していただいた上で、数人が泊まりがけで作業する事態となり、お客様からもクレームをいただくことになりました。

失敗からの学びと、乗り越えた方法

報連相の重要性を実感

当時は私と新人2名で担当していました。「自分が間に合わせなければ」という焦りから、上司から「大丈夫か」と聞かれても、プライドが邪魔をして「大丈夫です」と答えてしまったのです。限界に達したところで上司にタスク管理を助けてもらい、最終的には社員全員の協力で乗り切りました。もっと早く報連相を徹底すべきだったと痛感しています。当時は仲の良い同僚や上司の「1人だと思わなくていいよ」という言葉に、本当に救われました。

若手社員へのメッセージ

イメージだけで作業を進めるのは避けてください。実際の作業とのズレが時間の余裕を奪い、ミスにつながります。思い込みを捨て、図面や仕様書をしっかり確認しましょう。そして大変なときこそ、上司や同僚に相談し、情報を共有する報連相の重要性を忘れないでください。